2024/8/23
釧路市教育委員会

釧路市授業マイスター
「釧路市が目指す授業」実践レポート

令和6年7月16日新谷将司先生（景雲中）

令和6年7月23日柴田敬祥先生（美原中）

令和6年7月11日三守絢子先生（新陽小）

新陽小学校の三守絢子先生は、小学校6年の国語書写の授業で、目標を「筆順と点画のつながりを意識して、自分なりの課題を設定し、字形を整えて書くことができる」と設定しました。児童が自ら考え始める見通しとなるよう、まず、文字「友情」の手本を提示し、児童に試し書きをするよう促しました。次に、児童から試し書きで気付いたことを引き出し、学級全体で共有し、課題「筆順と点画のつながりに気を付けて、字形を整えて書こう」の明確化につなげました。

景雲中学校の新谷将司先生は、中学校3年の数学の授業で、目標を「2次方程式を具体的な場面で使うことができるとともに、解が適切か検討することができる」と設定しました。終末で、「できた！わかった！」と実感できる「まとめ」となるよう、本時の学習内容と生徒の思考の足跡が整理された板書とする工夫をしました。終末では、「2次方程式を活用して解くには、どうすればよかったかな?」と問いかけ、「まとめ」につなげました。

美原中学校の柴田敬祥先生は、中学校1年の理科の授業で、目標を「受粉後、果実と種子ができることから、花のつくりにおいて、どこが果実と種子になるのか仮説を立て、観察の結果をもとに子房が果実に、子房の中の胚珠が種子になることを考察し、表現することができる」と設定しました。生徒が自ら考え始める見通しとなるよう、「花は何のためにある？」「種子はどこにできる？」と問いかけ、課題「花のつくりにおいて、種子や果実になる部分はどこなのだろうか」の明確化につなげました。

釧路市授業マイスターの授業実践は、左のQRコードからご視聴いただけます。
また、右のQRコードの「釧路市授業交流クラスルーム」では、日常の授業づくりに関わる質問等を随時お寄せいただいております。皆様からの投稿をお待ちしております。